

# 韓国留学体験レポート

新潟国際情報大学

国際文化学科

21015051 齋藤優菜

今回の派遣留学では、初めてを多く経験し、そして多くのことを学ぶことが出来た。

韓国での生活は、はじめは慣れないことも多く、苦勞もあった。その中でも、一番不便だなと感じたことは、トイレだ。韓国のトイレは、紙を流せないことがほとんどであるため初めは、慣れず苦勞した。

他に食事の面では辛い物が多かったが、徐々に慣れていった。朝食と夕食は、各自お店で買って食べたり、寄宿舎で作って食べたり、それぞれであった。お店で買う場合でも、安く簡単に食べることができるものが多く、食事に困ることはなかった。昼食はほとんどの人が、学生食堂を利用していた。メニューも豊富で、500円程度でお腹いっぱい食べることが出来た。

授業は、午前と午後に分かれ、韓国語ですべて行われた。初めは理解するまでに時間がかかったが、自然と理解できるようになった。クラスも様々な国の方がいたため、クラスの友達と話すときはすべて韓国語であった。クラスの友達と話せるようになるためにも韓国語を頑張ろうという気持ちに自然となり、授業も意欲的に受けることが出来た。

放課後は、課題をしたり、観光地巡りをしたりした。キョンヒ大学には、「トウミ」という、一人に一人、韓国人の大学生が付き週に一回程度、一緒に勉強したり遊んだりする制度がある。そのためそこでより実用的な韓国語を使うことができる。私のトウミは年上のお姉さんだったが、色々なところに遊びに行った。韓国で、韓国人の友達と待ち合わせをして出かけるということだけでも留学しなければ経験できなかったことなのでとても嬉しかった。

土日にも主に観光地に行くことが多かった。ゆっくり時間をかけて宮廷巡りをしたり、買い物をしたりした。旅行で韓国に行った時にも宮廷には行ったことがあったが、留学中は旅行の時のように時間に迫られることがないので、ガイドを聞きながらゆっくり観覧できてよかった。

韓国に留学をし、日本との文化の違いなどを直接感じ、体験することができ、貴重な異文化理解の場となった。留学に行ったということだけに満足するのではなく、これからの生活の中で色々なことを活かしていきたい。そして、韓国語向上にも今まで以上に力を入れていきたい。